

厳冬の候、地域の先生方にはますますご清栄のことと存じます。日頃より患者様のご紹介・逆紹介において大変お世話になっており、厚く御礼申し上げます。

## 診療科紹介 「脊椎・脊髄外科」

整形外科（脊椎・脊髄外科）の担当医師は田中雅人副院長、荒瀧慎也部長、小松原将部長、宮本彬義医師の4名です。対象となる主な疾患は頸椎症性脊髄症・神経根症、腰部脊柱管狭窄症、脊椎すべり症、腰椎椎間板ヘルニア、骨粗鬆症性椎体骨折、脊椎外傷、脊柱側彎症、脊椎・脊髄腫瘍です。

### 代表的な手術

#### ①側彎症

当院では子供から大人まであらゆる年齢の側彎症手術を行っております。思春期特発性側彎症では後方矯正固定術を行うことが多いですが、適応があれば前方矯正固定術も行うことができる数少ない病院の1つです。前方矯正固定術を行うことにより、固定範囲を短くすることができます。また、難易度の高い成人脊柱変形の手術も積極的行っております。当院では術中CT（O-arm）を導入しており、コンピューターによるナビゲーション手術を行うことでスクリューの挿入を正確に行うことが出来ます。



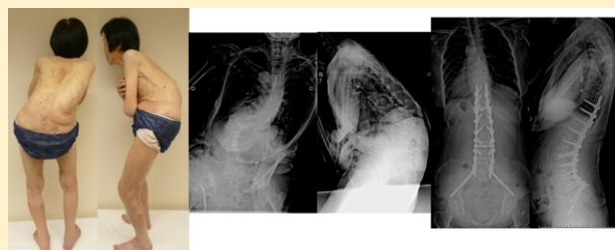
O-arm



ナビゲーション



小児の側弯症 術前後写真

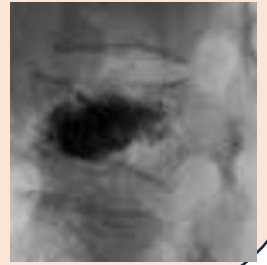
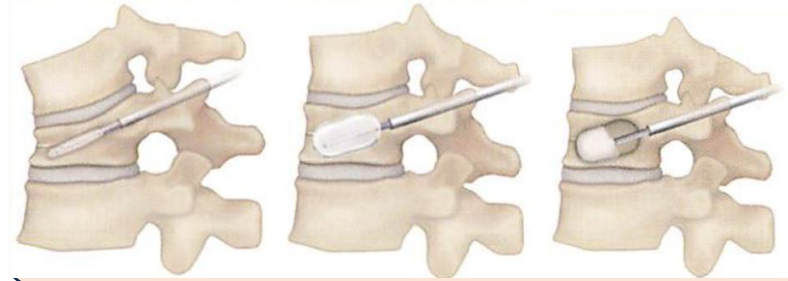


高齢者の側弯症 術前後写真



## ②骨粗鬆症性椎体骨折

骨粗鬆症性椎体骨折いわゆる圧迫骨折・破裂骨折は保存加療の適応となることが多いですが、2～3割は手術適応となります。当院では保存加療で疼痛が改善せず、画像上偽関節のリスク因子のある症例には経皮的椎体形成術を積極的に行っております。手術時間は30分程度で出血は少量、脊椎手術の中で一番侵襲の少ない手術です。当科の研究で、受傷後4週以内に手術を行った方が術後の臨床成績がよいことが明らかとなり、早期介入を心がけております。手術適応かどうかの判断は難しいこともあるため、開業医の先生方から積極的に当院に紹介していただければ幸いです。



## ③腰部脊柱管狭窄症、腰椎椎間板ヘルニア

最近は適応があればFESS（Full-Endoscopic Spine Surgery）という内視鏡を使用した術野に生理食塩水を還流させながら行う手術を行っております。背部に約5mmの傷が1-2か所と従来の手術と比べて傷が小さいのが特徴です。術後の痛みが軽く、仕事への早期復帰が実現できます。



### 当科の特徴

外国から研修医の受け入れを積極的に行っております。外国の医師とディスカッションを行うことで、新たなアイデアをもらい、日々の診療に生かしております。

（文責：宮本彬義）

